

## 伊藤循環器内科クリニック



【医療機関の先生方・市民のみなさまへ】  
 心臓や血管の病気、具体的には動悸、胸痛、息切れ、足のむくみなどの症状を得意としていますが、その原因となる高血圧や糖尿病、高コレステロール血症といった疾患を診ることが多いです。緊急を要する心筋梗塞や入院が必要な心不全といった疾患は南海医療センターにお願いして適切な治療をしていただいております。  
 近年は発熱、風邪症状の患者さんを診ることも多いです。発熱で来られた場合まずはインフルとコロナの検査を屋外(車内)で実施し、陰性なら中に入ってください必要に応じて胸部レントゲンや採血検査をします。できるだけ合理的に診断し、より効果的なお薬を処方したいと考えています。  
 気軽に受診していただければと思います。

### 院長からひとこと

患者さんの不安を少しでも取り除くことができればうれしいです。



医療法人 ICC  
 伊藤循環器内科クリニック  
 〒876-0813 佐伯市長島町4-1-7  
 TEL 0972-25-1700  
 診療科/内科・循環器内科 院長/伊藤 健一郎

## 連携医療機関の紹介

### 【医療機関の先生方・市民のみなさまへ】

2019年4月に長島町に開院しました。総合内科専門医として、幅広い症状に対応しております。チームワークとホスピタリティを大切にしたい心のもった診療で、一人ひとりに寄り添います。胃カメラ、大腸カメラ、腹部エコー等の消化器疾患の検査を主として内科一般の検査や治療を行い、必要に応じて専門医療機関へ紹介させていただきます。また、明るく清潔な環境づくりに力を入れています。大腸カメラの検査前に安心して下剤が飲めるよう、専用のトイレ付個室も完備、検査が終わった後もゆっくりとくつろげるような空間づくりを心がけています。これからも地域医療に貢献できるようスタッフ一丸となって努力してまいります。



## すどクリニック

### すどクリニック

〒876-0813 佐伯市長島町1丁目4番16号  
 TEL 0972-28-7711  
 診療科/総合内科・消化器内科・内視鏡内科  
 院長/簀戸 聖子



### 院長からひとこと

ささいなことでも気軽にご相談いただけるよう、皆様にとって身近なクリニックを目指しています。



2024.12  
vol.27

10月26日、院内災害訓練を開催しました。一言に災害と言っても、風水害、大地震、近隣での多数傷病者発生事故等、多岐にわたります。今回のテーマは、最大震度6強の巨大地震時に押し寄せた多数傷病者への対応でした。参加職員は総勢55名、うち医師は12名、さらに今回は患者役として佐伯准看護学院の学生さんら5名にも参加して頂きました。病院入口にトリアージポストを設置、医師と看護師が2人1組で一次トリアージ(START法)を行い、2階フロアに展開した各トリアージエリアに患者を移動、エリア毎に二次トリアージ、初期対応を行い、重症度から優先順位を決定しました。同時に立ち上げた外来部門指揮所が患者情報を把握、災害対策本部診療部門と情報を共有し、入院あるいは搬送調整を行いました。エレベーターは使用不可と設定、人海戦術でエアーストレッチャーを用いた患者移動も経験してもらいました。トリアージ、タグの記入、限られた資源下での医療等、災害時の医療の一部ではありますが、実際に経験することが災害に対する意識の向上につながると考えています。

副院長 武内 裕



〒876-0857 大分県佐伯市常盤西町7-8  
**南海医療センター**

<https://nankai.jcho.go.jp/>  
 TEL 0972-22-0547(代表)  
 FAX 0972-23-4083



## 「院内災害訓練 開催しました」



### contents

- P1 災害訓練
- P2 診療科の紹介 血液内科
- P3 居宅介護支援センターの紹介、JCHO学会報告
- P4 連携医療機関の紹介 伊藤循環器内科クリニック、すどクリニック

## 診療科の紹介

### 血液内科

部長 春山 誉実 医師  
 榎原久美子 医師



### 最先端の医療を地域で

当院の血液内科は現在、春山、榎原の2人体制で日々診療にあたっています。

“最先端の医療を地域で”をモットーに、貧血、健康診断異常や良性疾患はもちろんのこと、悪性リンパ腫や白血病などの血液悪性腫瘍に対し専門的に治療を行っています。特に佐伯市、臼津地区では唯一の常勤を有する病院であり、大分県南部の血液診療を支えています。

当院の特徴として特に強力な化学療法が必要な患者様に対し無菌室を3床完備しており、重症度の高い患者様も積極的に受け入れています。特に大分県南部は高齢化社会が進んでおり、ご高齢の方や他の持病や体力に不安のある患者様もたくさんご紹介頂いています。

血液診療も大きく進歩し、以前の脱毛・消化器症状・倦怠感を伴うような抗がん剤だけでなく、分子標的薬や免疫療法が登場しています。以前は治らなかった血液疾患についても長期生存が期待できる治療が増え、様々な選択肢を選べる恵まれた時代になりました。目まぐるしく血液診療は進歩しており、患者様の個々の状態・希望に応じた治療を「皆様といっしょ」に検討させていただきます。また治療が順調であれば外来化学療法を積極的に推奨している一方で、体力に自信のない方は入院でリハビリを行いながら治療後の社会的サポートまで一貫して行うことができます。

また造血幹細胞移植やCAR-T(キメラ抗原受容体T細胞)療法が必要な患者様は大分大学などの高次医療機関に紹介し、当院では化学療法や輸血、治療後のサポートを行っています。大分大学より非常勤医師を派遣頂き、放射線療法や移植、高次治療をスムーズに行えるよう工夫をしています。

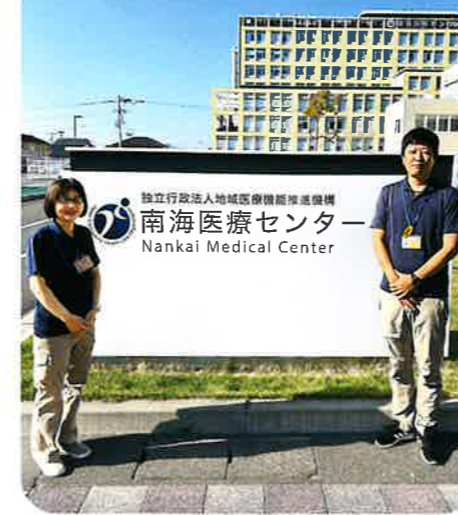
最後に健康診断での異常値や貧血等においてもお気軽にご相談頂ければと存じます。各診療科、病棟看護師・スタッフ、検査部等各部門と連携しながら地域密着かつ専門性の高い医療を提供致します。血液疾患と聞いて心配されている患者様、ご家族に安心して地域で治療ができるよう、より一層努力して参りますので何卒よろしくお願い申し上げます。

血液内科 春山 誉実



筆者：前列左から3番目

## 居宅介護支援センターの紹介



南海医療センター附属居宅介護支援センターは、平成21年7月に開設し、今年で16年目を迎え、併設する南海医療センター、介護老人保健施設と協力し、介護認定を受け居宅(自宅)で生活されている方々のケアマネジメントを行っています。

具体的な業務内容として、介護保険の相談、介護申請の代行、居宅サービス計画(ケアプラン)の作成、必要な介護サービス(デイサービスや福祉用具など)の調整、介護施設の紹介などがあります。

加速する高齢化社会を見据え、国の動きとしても医療・介護・予防・住まい・生活支援サービスが切れ目なく提供されるよう「地域包括ケアシステム」の構築が勧められています。我々、居宅ケアマネジャーもご利用者の自立支援のために、自己選択、自己決定を大切にしながら、様々な福祉サービス、地域支援の調整をお手伝いし、住み慣れた地域で生活を続けられる様、全力でサポートさせていただきます。

介護の事でお悩みの際には、ご相談下さい。

南海医療センター居宅介護支援センター 古川・山下

## 第9回 JCHO 地域医療総合医学学会に参加して

令和6年11月29日(金)～30日(土)の2日間、仙台市で開催された第9回JCHO地域医療総合医学学会に参加し研究発表を行いました。

発表内容は、当院が2020年の新築移転時に実施した『目標貸出率を用いた医療機器購入台数の検討』についてです。

この取り組みにより、各部門における医療機器の必要台数を適切に見積もることができ、過剰購入や不足を防ぐことができました。

また、移転から6年が経過した現在も、この取り組みが有用であったため今回の学会で他施設の皆様にも共有させていただく機会を得ました。

本学会で印象深かったのは、「やれる理由こそが着想を生む—はやぶさ式思考法」というタイトルにて、元「はやぶさ」プロジェクトマネージャーを務められた川口淳一郎氏が講師として登壇された特別公演でした。実際の体験に裏打ちされた「先の見えない30年がかりのミッション」を達成された方の「とにかく自分の思ったことを実行してみよう、そこから物事が始まっていく」という「不屈」の念が伝わってきました。今後もJCHOの一職員として何事にも挑戦していく信念が必要だと再考させられた特別公演でした。

本学会は普段交流の無い他部門および他JCHO施設の取り組み等を聴講でき、今後の業務に活かせる知識を吸収できた有意義で充実した2日間の学会でした。

今回JCHO学会に初参加させていただき、発表も含めてとても緊張しました。しかしながら、院内でのプレ発表および所属部署内外からのご助言をいただき、発表内容に修正を重ねて無事に発表を終えることができました。

今回は貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

臨床工学科 臨床工学技士 中村 晃直



### 当院のJCHO学会 発表演題

- 「令和6年能登半島地震における日本静脈学会の静脈血栓症予防活動について」
- 「電子カルテ部門システムのリプレイスによる薬剤部業務の変化」
- 「地域の感染対策強化に向けた取り組み」
- 「目標貸出率を用いた医療機器購入台数の検討」
- 「地方のJCHO病院だけががん診療病院連携研修の研修薬剤師を受け入れてみた」
- 「幸福度は9点 他機関協働による退院支援を振り返って」
- 「いつか来る大規模災害に備えて」
- 「手術部位感染サーベイランスの取り組み」
- 「10年後の事務職の姿」

- 岩田英理子
- 海部 真代
- 中野 智美
- 中村 晃直
- 葉田 昌生
- 古木 和美
- 溝尻 真弓
- 三股阿沙美
- 矢野 裕之